

あいな 里山公園情報

～国営明石海峡公園神戸地区だより～

トピックス

- ヤマモモまつり
- 生き物観察会
- 工事現場の進捗情報
- あいな里山まつり
- あいな活動風景

夏のあいさつ

暑中お見舞い申し上げます。
毎日、暑くて寝苦しい日々を過ごしておられる方も多いかと思います。
ここで仕事をしていると、「里山の中は涼しそうで良いですね。」と言われる事も多いのですが、昼間の暑さは、街も山もそれほど変わりはありません。ですが、木陰に入るとひんやりとした空気をを感じる事が出来たり、風鈴の音色に風情を感じられるのは、里山ならではの事かもしれません。

製作・発行

国営明石海峡公園事務所 神戸地区現場事務所
〒651-1104 神戸市北区山田町藍那字伝庫14
TEL(078)593-3943 FAX(078)593-3944
kobe@kokueiakashi.go.jp
<http://www.kokueiakashi.go.jp>

生き物観察会のようす(2007.6.23)



実行委員会のようす(2007.7.24)

今までのあいな里山まつり

- 【第1回】 1999.12.5
- 【第2回】 2001.2.24
- 【第3回】 2001.12.16
- 【第4回】 2003.1.26

第4回までは里山づくりプロジェクトとして開催し、第6回以後は実行委員会主催となる

- 【第5回】 2004.2.21
- 【第6回】 2005.2.10
- 【第7回】 2005.11.26～27
- 【第8回】 2007.3.3

次の発行は9月中旬頃の予定です



実行委員会主催になつてから、3回を数えるあいな里山まつり。
第8回の反省会で、次回は秋に開催したいという声が高まり、そのまま「第9回あいな里山まつり」に向けて動き始めています。
既に、6月と7月で実行委員会を2回開催



神戸地区最大のイベント、あいな里山まつり。3月に終わつたばかりなのですが、今年度は秋の開催を目指し、早くも動き始めています。
し、まつりの開催日は11月24日(土)を予定しています。
今年度はお知らせしている通り、工事が園内各地で行われ、前回と同じ場所での開催は難しいのが現状です。
それでも近隣の方々に、公園の存在と活動の取組みをアピールできる数少ない機会なので、工夫して開催を目指したいと思っています。
工事中という事で、立ち入りを制限している神戸地区ですが、まつり当日は、立ち入り可能な範囲を拡大して、工事の進み具合や新しい施設なども見ていただけると思います。
また、まつりの当日は、開園した後の里山の公園の雰囲気味わっていただけのような構成を考えておりますので、少し先ではありますすが、楽しみにして下さい。

あいな活動風景

Photo Data

- 1 UPPファシリテーターグループ 遊具補修の様子 2007.6.16
- 2 あいな里山バイオパーク 田植えの様子 2007.6.16
- 3 環境ボランティア わかば会 布ぞうり作りの様子 2007.6.17
- 4 神戸市北区 サツマイモ植え付けの様子 2007.6.17
- 5 NPO法人 ランドエコシステム トンボ調査の様子 2007.7.22
- 6 Tree'ing Club Around the Tree 樹林整備の様子 2007.7.22



ヤマモモまつり

あいな育みの会 7月15日

まぶしいほどに鮮やかな赤
あいなの名産ヤマモモは
梅雨の季節の山からの贈り物

ヤマモモの旬は、初夏の本場に短い間。今年も例年よりもヤマモモの成りが早く、しかもヤマモモ祭りの開催日には、大型の台風4号が直撃の予報。



ヤマモモシロップづくり

ところが予報に反して当日は雨も上がり、30名を超える方に集まっていただいて、ヤマモモシロップづくりに挑戦していただきました。本場なら、木いっぱいに実ったヤマモモから、おいしそうなものを選んで採ってもらって、その場で食べていただくかったそうですが、さすがに前日までの雨と風でほとんどが落果。成っている状態を見てもらう事が、かろうじて出来たといった感じでした。



昼食のカレーの準備

水を含んだヤマモモの実は、味も落ちるので、この日の調理には1週間前に採っておいで冷凍したものを使用する事に。この日は、子どもも多く参加し、交代で鍋の中のヤマモモをかき混ぜていました。今回企画・運営をした「あいな育みの会」は、「あいな茶屋」と「あいな耕作くらぶ」が合併して出来た団体で、一つの団体で、栽培から加工まで行っています。



ヤマモモジャムとシロップ

生き物観察会

ため池・湿地帯の生き物保全グループ 6月23日

ため池の中を覗いてみると・・・
メダカ、フナ、スジエビ、モツゴ、
ため池の中には生き物がいっぱい！

園内のいたるところに存在するため池。農業用に整備され、使われていたのですが、今では貴重な生態系が残る場所としても、注目が集まっています。そんな豊かな生態系を後世に残そうと、活動を続けている活動団体の主催で、ため池の



ペットボトルのもんとりづくり

生き物観察会が開かれました。

ため池の生き物を観察する方法として「もんどり」と呼ばれる捕獲器具を池に沈め、中に入った生き物を観察するという方法があります。

このもんどり、仕組みは簡単なので、使い終わったペットボトルで簡単に作ることが出来ます。

そこで、この日集まった小学生にも、もんどりを手作りしてもらって、池に投げ込みました。



生き物の説明



ため池へのもんどりの投入

結果、かなりの量の生き物を捕獲する事ができて、それぞれに説明がされました。この日捕獲した生き物は、元の池に戻し、これからのため池で元気に生きてもらう事を願っていました。

工事現場の進捗情報

進む工事とうまれる命

梅雨で予定が立ちにくい時期ではありますが、予定されている工事は、着々と進んでいます。工事中は、立ち入り禁止にさせていただいていますので、その様子をお見せしたいと思います。

そして、大きな音に砂ぼこり。そんな印象が強い工事現場でも、小さな命は誕生しています。今回はそんな小さな命をご紹介します。

茅くずとカブトムシ

昨年、交流民家の屋根を葺いた茅。この作業の副産物の茅くずは良質の堆肥になるそうで、必要な方にはお分けして、残った分は事務所でも堆肥を作っていました。

この堆肥や野積みした茅くずには、昨年の夏の終わりに色々な虫が卵を産みつけたようで、7月に入ってからカブトムシの幼虫やさ



カブトムシ

なぎを見つけることが出来ました。かつて、農家が各自で堆肥を作っていた頃には、こういった光景も珍しいものではなかったのですが、今では大変貴重なものかもしれません。また、今回卵を産みつけられた堆肥が、交流民家に使用した茅の茅くずというのが、公園内の循環という意味でも非常に良かったのではないのでしょうか。耕作活動の一環としての堆肥作りも、茅の葺き替え作業も、公園として継続していこうとしている事です。カブトムシのためではなく、作業の副産物として、生態系が豊かにな



工事中の下水処理施設

る。これが本公園が目指している形のひとつなのです。

シロチドリ親子

6月のある日、工事現場の砂利の中にその卵がありました。大きさはウズラ卵と同じくらい。数は4つ。

産卵時期が分かったので、いつかえるのかも分かりません。

シロチドリは、スズメくらいの大きさで、普段は親鳥が卵を温めているのですが、警戒心が強く人の気配を察すると、親鳥はその卵から離れていきます。これは、卵を置いて逃げているのは無く、ケガをしたふりをして自らがおとりになるようにしているそうです。何度か、親鳥が卵を温めている様子を写真に収めようと試みたので



チドリのタマゴ

すが、直ぐに気配に気付いてしまい、うまくいきませんでした。とりあえず、工事業者も工事予定を変更してくれる事になり、「工事が進まなくて困る」と、当初困っていた様子だった業者の方も、無事に産まれるように温かく見守ってくださいました。

卵からヒナがかえった時には、なかなか動かない様子に心配そうに何度も様子を見に行っては生存を確認してくださいました。



産まれたてのチドリ



成長したチドリ

その甲斐あってか、4つの卵のうち、残念ながら1羽はかえらなかったようですが、3羽は無事かえり、今では親鳥の後について、この山を飛び回っているようです。